

短歌 (投稿順)

知床え行くぞ網走女満別霧の摩周湖天空えの道 皆野 戸塚喜久雄
 立冬の満月やさしく峡照らし囃すがごとく六時のチャイム 三沢 眞下 杏子
 明けくれに変わりもなきて父母の年越えてひたすら平和を願う 皆野 根岸 詩子
 カタールのワールドカップ会場の工事の事故死多数とニュース 上日野沢 四方田利男
 久方の光の中の小獅子たち鼓打ちつゝ喜びを舞う 皆野 萩原 初恵
 美容師に髪を整えいただきつつ昔語りす至福の時間 下日野沢 浅見 豊子
 日を浴びて黄金輝く雁坂嶺行楽の秋西沢溪谷 皆野 大澤 貴夫
 またとなり巡り合わせの月食に心打たれてシャッターを切る 皆野 村田ハツ代
 彩の国健康鉄人の名を基に九半ばの五体を守る 三沢 新井 叶子
 ゆったりと秩父音頭の夕時報心安らぐバイオリンの音 三沢 新井 民子
 石巻復興祈念公園の夕陽は照らす白き階段 皆野 打木 昭廣
 靴箱の上にごんぐり並べてる幼姉妹に静かな時間 皆野 引間 万亀
 音たてて落葉散うく沢辺なり朝日射したり色は重なる 国神 藤原マキ子
 咲き終えて枯れて伏したる秋桜農夫朝から刈り取りの音 下田野 新井 節子
 恩師逝く大往生のそののちもどうぞ我らを見守りたまへ 皆野 石原 達也

俳句 榎本順江 選 投稿数 19句

峡の陽と風の好日吊し柿 三沢 新井 民子
 (評)柿が当たり年のようで、きつと大量の柿が初冬の軒に並んでいる事でしょう。陽も風も柿に丁度良い日和が続ぎ出来上がりももうすぐです。穏やかな山里の風景が浮かぶ秀句です。
 二句目、枯葉の舞う季節になると若かりし日に聞いた懐かしいシャンソンを思い出します。様々な思い出も引き寄せてくれるシャンソン、郷愁に浸る作者。あの、は今も昔も変らぬ名曲「枯葉」でしょうか。思い出は名曲と共にですね。
 三句目、青空のもと、絶好のみかん狩り日和、仲間も散らばりどこへやら、時々掛け合う声の木々の間を転げて来る楽しそうなみかん山の様子が見える句です。
 枯葉舞う遠き昔のあのシャンソン 山を背に日向ぼつこの家並ぶ 皆野 引間 千鶴
 蒼穹や声のころがる蜜柑狩り 皆野 根岸 詩子 オカリナは友の伝言秋深し 皆野 櫻井 早苗
 冬枯れに皆既月食ショータイム 下田野 新井 節子 年新た朝の体操すがすがし 皆野 新井 ちか
 当たり年と笑顔で届くはちや柿 三沢 眞下 杏子 冬日向縁の布団に猫丸く 皆野 土屋 良彦
 山ぶどう道有林をはみ出して 皆野 戸塚喜久雄 正月は生き抜く道の一里塚 三沢 新井 叶子